



渡邊 雄二さん (西の地防災きずな会)

A1. 2019年に婚約者が住む美波町へ東京からの移住を決意。移住者として、まずは地元の方に顔を覚えてもらうことが大切だと思っていたので、地域の方と接する機会の多い協力隊員の仕事に応募することにしました。

A2. 西の地防災きずな会が運営する「まったりカフェみなみ」の運営業務を中心に行っています。前職がデザイン関係だったので、防災マップやチラシ作成などの防災関連業務なども行っています。

A3. 「まったりカフェみなみ」の設立目的である「地域の人が集まるコミュニティづくり」を、もっと具現化していきたいと考えています。自分の仕事を通じて、自分が住む地域に良い変化をつくっていけたらと思います。



本間 友樹さん (一般社団法人 アンド・モア)

A1. 建材メーカーで新築向けの商品開発をしていたのですが、「新しいもの」を作り続ける一方で、「利用できるものを利用しないのはもったいないな」と、空き家の利活用問題に興味を持っていました。漠然と自然の近くで暮らしたいと考えていたことや、移住イベントで美波町役場の方と出会ったこと、空き家活用に関わる協力隊の仕事に空きが出たことなどが重なり、美波町への移住を決めました。



西藏 祥大さん (日和佐 発心の会)

A1. 前職の建築設計事務所を退職したタイミングで、学生時代お世話になった神奈川大学の教授から、「美波町に来ないか」と誘われたのがきっかけです。大学の時から美波町のことは知っていたので、おもしろそうだと思います。協力隊として移住しました。

A2. 日和佐発心の会に所属し、桜町通りを中心とする町内のにぎわいづくりに取り組んでいます。桜町にある交流オフィス内に古本屋をつくったり、地域の縫製工場と連携してウミガメ柄のマスクをつくったりと様々なことに挑戦中です。

A3. 美波町は観光資源がとても多いので、もっと観光客に桜町通りを巡ってもらえる仕掛けをつくっていきたい。国道沿いに計画している観光案内所もその一つです。また、桜町通りに誰でも使える屋外家具(ストリートファニーチャー)の設置を進めていて、町内外の人が気軽に交流できるスペースも増やしていきたいと思っています。

地域おこし協力隊 in 美波

A2. 移住・定住支援事業を行う一般社団法人アンド・モアで、移住希望者のサポートや移住後の定住支援を行っています。合わせて、移住者向けに居住可能な空き家の掘り起こしなども行っています。

A3. 今は補助的な立場が多いので、今後は自分が主体となって移住者を美波町に呼び込めるようになりたいですね。移住は人と人とのつながりによる部分が大きい。自分なりの方法を見つけていきたいと思っています。

お知 美波町の地方創生に関する新聞記事や雑誌が以下の場所でご覧いただけます！

お世 日と佐地区：日和佐図書・資料館 1階 / 由岐地区：由岐ふれあいホール (ぽっぽマリソ 2階)